



教育活動の目標と方策

＜立川八中独自の取組＞

- 東京都の道徳教育推進校及び立川市教育研究協力校として、特別の教科道徳に関して全教育活動で関連を図ることで、より円滑にまた生徒にとって有効・有益な指導方法を検討し実践する。
- 道徳教育を学校の教育活動の中心に据え、生徒の健全育成・心の醸成・生活の安定・将来への希望に結び付ける。また「人を愛する」を基本に、友達を、家族を、地域を、学校を、先生を、そして自分を愛する力を育成する。
- 道徳の授業は、学級担任だけでなく学年教員や校長による授業を実施することで、生徒・保護者にとってより身近で親しみやすいものとする。
- 創立40周年を迎え、周年行事に向けて地域の様々な個人・団体と連携することで、改めて「地域の学校」ということを明確にし、地域と協働して教育活動を行う。
- 市内最小規模校というスケールメリットを生かした、「小規模校だからこそ出来る教育活動」を模索し実践する。
- 学区内で、小学校1校、中学校1校という条件を生かした「学びの連続性」を重視し、より深く連携した教育活動を検討し実践する。

＜学力向上＞

- 英語・数学での少人数指導をはじめとして、生徒個々の状況に応じた指導を行い基礎・基本の確実な定着を図る。
- 国・都の学力調査を分析し、より効果的な指導方法を検討し実践する。
- 学習支援員や学習ボランティアを活用し、放課後を中心として補充学習を行い、つまづきの解消を図り、学習意欲の向上を目指す。同時に近隣大学との協調を図り、教職を希望する大学生の受入等を検討する。
- タブレットPCを活用したICT教育を推進する。
- 家庭学習の習慣化・定着化を図るために、家庭との連携を重視し生徒・保護者の啓発を行う。また各種検定等を有効活用し学習意欲を喚起させる。

＜体力向上＞

- 都の体力テストの結果を活用し、生徒自身に自己診断をさせ、生活・運動習慣への意識を改善させる。
- 生徒による生徒のための体力向上への取り組みを、生徒会が中心となる企画を行う。

＜特別支援教育の充実＞

- 管理職・特別支援コーディネーターを中心として、SC・支援員・SSW・市教委関連担当部署との連携を密にして、よりタイムリーで効果的な支援を行う体制を構築する。同時に校内委員会の位置付けを高め、教職員の意識の啓発→向上を図る。
- 通級指導学級と通常の学級との連携の強化のために、外部講師を招へいして研修会を開催し、教職員の理解を高める。
- 通常の学級の生徒に対しても、通級指導学級の意義・位置付けを明確に説明し、これからの共生社会への理解を深めさせる。

＜地域社会との連携、市民力(地域の力)の活用＞

- 地域の各種団体との連携を密にする。
- 生徒だけでなく保護者への啓発を行い、地域の一員としての自覚と責任を学ばせる。
- 夏祭り等、積極的に地域行事を案内し、ボランティア活動を奨励することで地域の一員としての自覚を持たせる。

＜学区小学校との連携活動＞

- 管理職同士の経営方針の共通理解を促進させ、より具体的な連携方法を模索する。
- 英語科教員だけでなく、理科や保健体育など複数の教科で小学校への教員派遣を行う。同時に小学校教員の中学校での研修を実施する。
- 中1ギャップの解消のために、中学校での授業・部活をはじめとして、中学校での体験活動を行う。
- 地区別班編成を中学校側が小学校の班に合わせ、小学校1年生から中学校3年生までの地区班を編成し、実際の震災発生時の避難・誘導だけでなく、その後の円滑な避難生活ができる環境を作る。(今年度は調整を行う)

＜生徒の意識向上・教職員の変容＞

- 小規模校にしか出来ない施策(行事等)を創造し実践することで、生徒にプライドを持たせ、学校・地域への帰属意識を高めさせる。
- やらせる指導から主体的にやる指導への転換を図ることで、生徒の成長だけでなく、教職員の変容を導く。